

(平成23年7月分)

部 門	市況の概要
野 菜	7月期の野菜の入荷状況は、根菜類では、長ダイコンで天候不順から生育の遅れがみられたが、その後、回復し入荷増となった。西洋ニンジンでは、天候不順から作柄不良がみられたが、前年の入荷が少なかったことから入荷増となった。葉菜類は、生育期の低温の影響からハクサイ、キャベツで入荷減となった。ホウレンソウは、産地により作柄が様々で入荷並となった。レタスは、生育期の低温の影響から中旬までは、入荷減であったが、作型、品種が切り替わる中で入荷増となった。果菜類では、生育期の低温や多雨の影響からトマト、ピーマンで入荷減となった。キュウリは、主力産地の福島県で震災の影響による作付けの遅れから入荷減となった。ナスは、産地により作柄は、様々であったが、前年の入荷が少なかったことから入荷増となった。土物類では、バレイショで、生育期の多雨の影響から入荷減となった。タマネギは、作柄良好であったが、単価安の中で、産地の出荷量が減少し、入荷減となった。野菜全体の入荷量は、前年同期を8%下回った。 価格は、根菜類では、長ダイコンが業務、加工需要の低迷、西洋ニンジンが品質不良からそれぞれ単価安となった。葉菜類では、品目により様々であった。果菜類では、入荷減となった多くの品目で単価高となった。土物類では、前年の単価高などにより単価安となった。野菜全体としては、前年同期並みとなった。 品目別には、長ダイコン、西洋ニンジン、レタス、ナスが入荷増の単価安、ホウレンソウが入荷量、単価ともに前年並、ハクサイ、キャベツ、キュウリ、トマト、ピーマンが入荷減の単価高、バレイショ、タマネギが入荷減の単価安となった。 根菜類は、入荷が5%増加し、価格は17%安となった。 葉菜類は、入荷が9%減少し、価格は前年並みとなった。 果菜類は、入荷が12%減少し、価格は11%高となった。 土物類は、入荷が11%減少し、価格は26%安となった。
果 実	7月期の果実の入荷状況は、生育期の天候不順の影響によりリンゴ類を除いて、入荷減若しくは、入荷前年並みとなった。リンゴ類は、産地での流通在庫が多い状況となっており、入荷増となった。果実全体の入荷量は、前年同期を6%下回った。 価格は、桃、ブドウ類、メロン類が入荷減により単価高となった。スイカ類は、需要が堅調であったことから単価高となった。柑橘類は、ハウスミカンで、下位等級の入荷が多く単価安となった。果実全体では、前年同期を5%上回った。 品目別には、ふじりんごが入荷増の単価安、大玉スイカが入荷前年並の単価高、桃、デラウェア、アールスメロン、アンデスメロンが入荷減の単価高、ハウスミカンが入荷減の単価前年並みとなった。

	柑橘類は、入荷が１４％減少し、価格は前年並みとなった。 リンゴ類は、入荷が１５％増加し、価格は２３％安となった。 桃は、入荷が１６％減少し、価格は１３％高となった。 ブドウ類は、入荷が１０％減少し、価格は９％高となった。 メロン類は、入荷が２７％減少し、価格は１６％高となった。 スイカ類は、入荷が前年並みで、価格は１９％高となった。
--	---

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長ダイコン 西洋ニンジン	北海道を中心に、青森県、岡山県、岐阜県、千葉県からの入荷。主力の北海道産で、上旬は、干ばつの影響から生育の遅れがみられたが、中旬以降生育が回復し入荷増となった。全体の入荷量は、前年同期を3%上回った。 価格は、業務、加工需要の低迷から前年同期を7%下回った。 北海道を中心に、長崎県、青森県、和歌山県、兵庫県からの入荷。各産地ともに生育期の天候不順の影響から作柄不良がみられたものの、前年の入荷が少なかったことから、前年同期を23%上回った。 価格は、入荷増であったこと、また、腐敗等の品質不良がみられたことから、前年同期を40%下回った。
【葉菜類】 ハクサイ キャベツ	長野県を中心に、群馬県、北海道、茨城県からの入荷。各産地ともに生育期の低温の影響により、作柄不良がみられ小玉傾向での入荷となった。入荷量は、前年同期を24%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を5%上回った。 群馬県を中心に、長野県、茨城県、大分県からの入荷。各産地ともに生育期の低温の影響により、作柄不良がみられ小玉傾向での入荷となった。入荷量は、前年同期を6%下回った。 価格は、入荷減であったこと、また、業務、加工需要が堅調であったことから、前年同期を11%上回った。
ハウレンソウ レタス	岐阜県を中心に、長野県、京都府、北海道、茨城県からの入荷。主力の岐阜県からの入荷は、順調であったものの、北海道産で生育期の低温の影響により、作柄不良がみられた。全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、前年同期並みであった。 長野県を中心に、北海道からの入荷。主力の長野県産で、生育期の低温の影響により、作柄不良がみられ中旬までは、小玉傾向での入荷となった。中旬以降、品種、作型が切り替わり、大玉傾向での入荷となった。全体の入荷量は、前年同期を14%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を21%下回った。

【果菜類】	
キュウリ	京都府，福島県，愛媛県を中心に滋賀県，宮崎県からの入荷。 主力の福島県産は，震災の影響による作付の遅れから，著しい入荷減となった。全体の入荷量は，１８％下回った。 価格は，入荷減により前年同期を２０％上回った。
ナス	京都府を中心に，徳島県，高知県，滋賀県，奈良県からの入荷。 多くの産地で，生育期の低温，多雨の影響から生育の遅れがみられ入荷減となったものの，主力の京都府産の入荷が順調であったこと，また，前年の入荷が少なかったことから，前年同期を６％上回った。 価格は，入荷増により前年同期を６％下回った。
トマト	北海道を中心に，岐阜県，京都府，三重県，福岡県からの入荷。 主力の北海道産で，生育期の低温の影響から作柄不良がみられ，全体の入荷量は，前年同期を２０％下回った。 価格は，入荷減により前年同期を１３％上回った。
ピーマン	大分県を中心に，茨城県，高知県，兵庫県からの入荷。 主力の大分県産で，生育期の低温，多雨の影響から作柄不良がみられ，全体の入荷量は，前年同期を１４％下回った。 価格は，入荷減により前年同期を１６％上回った。
【土物類】	
バレイショ (メーク含む)	長崎県を中心に，北海道，千葉県，青森県，静岡県からの入荷。 主力の長崎県産で，生育期の多雨の影響から作柄不良がみられ，全体の入荷量は，前年同期を１５％下回った。 価格は，入荷減ながら，前年が単価高であったこと，また，品質不良がみられたことから，前年同期を４７％下回る結果となった。
タマネギ	兵庫県を中心に，長崎県，中国，佐賀県，京都府からの入荷。 国内産は，各産地ともに作柄良好で，豊作傾向であったものの，単価安の中で，産地の出荷量が低下した。全体の入荷量は，前年同期を１５％下回った。 価格は，入荷減ながら，前年が単価高であったことから，前年同期を３６％下回った。
【その他野菜】	
生しいたけ	徳島県を中心に，広島県，北海道，岡山県，和歌山県からの入荷。 北海道産の入荷は順調であったものの，広島県産，岡山県産で高温の影響から作柄が悪く，全体の入荷量は，前年同期を１６％下回った。 価格は，入荷減ながら，上位等級を中心に不況による需要の低迷が続いており，単価安であった前年同期並みとなった。

主要品目（果実）	市況の概況
ハウスミカン	佐賀県を中心に、長崎県、和歌山県、愛知県、高知県からの入荷。各産地ともに、生育期の低温の影響から作柄不良がみられ、入荷量は、前年同期を12%下回った。 価格は、入荷減ながら下位等級の入荷が多く前年同期並みとなった。
ふじ （サン含む）	青森県からの入荷。 本年は、着色不良や下位等級品が多く、産地での流通在庫が多い状況となっており、入荷量は、前年同期を56%上回った。 価格は、入荷増により、前年同期を25%下回った。
桃	山梨県を中心に、和歌山県、長野県からの入荷。 各産地ともに、生育期の天候不順により小玉傾向での入荷となり前年同期を16%下回った。 価格は、入荷減により、前年同期を13%上回った。
デラウェア	山形県、大阪府を中心に、京都府、奈良県、山梨県からの入荷。 各産地ともに、生育期の高温の影響から着色が進まず、全体の入荷量は、前年同期を19%下回った。 価格は、入荷減により、前年同期を7%上回った。
アールスメロン	高知県、京都府、静岡県を中心に、愛知県からの入荷。 多くの産地で生産者の高齢化等により、栽培面積の減少がみられ、入荷量は、前年同期を23%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を24%上回った。
アンデス	山形県を中心に、茨城県、滋賀県からの入荷。 主力の山形県産で生育期の天候不順により作柄不良がみられ入荷量は、前年同期を24%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を11%上回った。
大玉スイカ	鳥取県、石川県を中心に、長野県、山形県、愛知県からの入荷。 多くの産地で天候不順により生育の遅れがみられ、鳥取県産では、入荷が本月にずれ込み入荷増となる一方、長野県産、山形県産では、入荷減となった。全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、需要が堅調であったことから前年同期を20%上回った。